

心豊かなひととき

：読み聞かせ

「Senの風」代表

宮坂 順子

実りの秋九月、手作り大型紙芝居の読み聞かせ公演の機会をいただきました。当日は広い会場で大勢の皆さんを前に、身の引き締まる思いでステージに立ちました。

しかし、読み聞かせをはじめると、いつの間にか作品の持っているテーマやメッセージに支えられ、そして何より会場で聴いてくださった皆さんと、ひとつの文学作品を通して心豊かな時間を共有することができ感謝の気持ちでいっぱいになりました。

原作には「自分と似た者を認め愛することは簡単ですが、自分とは違っている者を認め尊重し愛することは難しい。異なる者どうしの愛こそが尊い。」という大きなテーマがあります。

このテーマをもとに、後半の分散会で初めてお会いする方々と意見交換をしました。自分の

人権教育研修に

参加して

花田養護学校

福島 茉由



今回の人権教育研修で最初に行われた「Senの風」の皆さんによる『カモメに飛ぶことを教えた猫』の読み聞かせでは、ピアノの演奏や台詞の言い回しなど本場にすばらしく、気づくとお話の世界に入り込んでいました。

ゾルバとフォルトウナータのやりとりから、「異なったもの同士が認め合い、尊重し合うこと」の大切さが、とても伝わってきました。

花田養護学校の子どもたちにも、「Senの風」の皆さんによる『カモメに飛ぶことを教えた猫』の読み聞かせを聴かせてあ

異なる者同士が、心を通わせることは可能か？

下諏訪社中PTA会長

手塚 修



先日、人権教育研修会に参加させていただきました『カモメに飛ぶことを教えた猫』の読み聞かせ公演を拝聴させていただきました。人間の身勝手さ故の、黒い死の海の犠牲になった一羽のカモメが残した一つの卵。力尽き、息絶える間際に猫のゾルバに託した三つの約束。卵を食べないこと、ひなが生まれるまで卵の面倒をみることに、ひなに飛ぶことを教えてやること。

その約束を果たそうと、仲間と奮闘する物語は、文化の違い、種の違い、異なる者同士は心を

言葉で今の自分の気持ちをきちんと発言すること。そして他の方の思いや意見をしっかりと聴くこと。これだけでも共感することや新しい発見がたくさんあり自分自身の心が広がったように感じました。人権を考えることは、ここからはじまるのではないかと思いました。

一冊の本を介して、人と人がつながり、様々な思いを共有することができる読み聞かせ。この貴重な体験は何ものにもかえることができません。

素直に共感し深く感動したり、笑うほど楽しめたり、静かに心が痛んだり……。一冊の本から受けとめる感じ方は一人ひとり違います。その異なった思いこそ大切にしたいものです。

そして、互いに思いを共有するもよし、自分自身の心の中で自問自答するもよし……。心豊かに生きるということは、こんな体験を積み重ねることなのではないかと思えます。

これからも絵本や本の力を信じ、心をこめて、読み聞かせをしていきたいと思えます。

通わせることは可能か、どうしたら飛べるようになるのか。非常に奥が深く考えさせられるところがありません。

自分と似た者を認めたり、愛したりすることは簡単だけれど、違っている者の場合はとても難しい。しかし、カモメのおかげで、自分とは違っている者を認め、尊重し、愛することを知った、とゾルバは言っている。

「異なる」からと言って排斥するのではなく、認め合い、尊重し合えばいいと、理論ではなく実感をもって知るゾルバを通して、私たちの心にも語りかけるものが多くありました。

この物語から、人間が決して軽んじてはならないこと、忘れてはならないこと、心の奥で大切にしなければならぬことを改めて考えさせてくれた気がします。

今回、この研修会で、貴重な体験をさせていただき感謝申し上げます。また、これからの未来を担う子どもたちにも、是非この本を読んでもらいたいと思います。

飛び立つかもめが築く未来に希望をのせて

役場教育こども課

竹淵 真由



心地のよいピアノの音色と美しい絵と語りは、まさに千の風のようにでした。物語が進みフォルトウナータが空を飛ぼうとするとき、昨年一年間の自分の姿が重なり、応援してくれた大切な人たちの顔が次々と浮かんできました。

私は、四月から下諏訪町で働きはじめましたが、それは築いてきた東京での生活を崩す選択でもありませんでした。それでもなぜ選んだのか、公演の最後に気づきました。この町が、ケンガーのように母が命をかけて生んで

げたいなと思えました。その後の分散会では、大型紙芝居ができるまでの過程や、小学校での読み聞かせなどの取り組み、職場での仕事の進め方など様々な立場の方のお話をお聞きすることができました。

自分と異なる立場や考え方を受け入れる、ということに実践していくのはなかなか難しいとは思いますが、林尚之指導主事のお話にあった「1+1が2ばかりではなく3や4にもなる」のように、そうすることで今までとまた違った見方や考え方が増えていくと思えます。

少しずつ意識しておこなっていききたいです。今回の研修で感じたことを子どもたちにも伝えながら、温かな学校生活を送っていききたいと思えます。ありがとうございました。



くれ、ゾルバたちのようにたくさんの人たちが私を育ててくれたふる里だったからです。

研修で学んだ「異なる者同士の愛」を心を持って、下諏訪町に住む人々が共に豊かに暮らすことのできる町にしていきたいと思えました。そのためにも、分散会の皆さんと考えあつたことが支えになります。

一つめは、置かれた環境で、ときには苦手だと感じて、相手と向きあい学びあうこと。二つめは、「一匹の猫の問題は、全ての猫の問題だ」という言葉のように、共に考えること。三つめは、自分たちの世界で精一杯尽くしても限界があれば、タブーを破ってでも新しい外の世界に問題を開くことです。

この物語の舞台がドイツであること知り、現在のシリアからの難民問題を思いました。私一人できることは小さいかもしれませんが、ゾルバのように真摯に生きていきたいと思えます。

